

第6次高萩市総合計画後期基本計画(案)に関する意見募集結果について

頁	ご意見	対応
57	<p>教育施設について</p> <p>現在資材の高騰などの理由で見送りになっている（と聞きました）小中一貫校の建設について、今ある施設を利用することはできないものかと考えます。</p> <p>山間部は交通の便が、河川付近は氾濫の危険性が、沿岸地域は津波の心配が、といろいろ検討すべき点はあるかと思いますが、果たして新施設が必要なのか、今ある施設を利用して、不備な点があればそこを補えばいいのではないのでしょうか。外部へのアピール度で言えば、斬新かつ画期的な再利用ができれば、市の魅力の一つとしてアピールできると思います。新しい順で言えば松岡小学校、ついで東小学校が挙げられます。</p> <p>個人的に東小学校の校舎は外観も内装も非常に魅力的だと感じます。しかも竣工が平成10年であり、まだ築28年ほどの施設です。また高萩中学校も併せて、国道6号線から近く、大型車両も通行できる点、高萩駅からもほど近い点もメリットかと思います。各施設にはそれぞれ長所があると思います。ぜひ効果的な活用を検討していただきたいです。そして、経費をハード側に使うのではなく、ソフト側、例えば子ども達の学習サポートや課外活動、または子育て支援の方に使ってほしいと考えます。</p>	<p>教育施設の再編につきましては、児童生徒数の減少や校舎の老朽化への対応を目的として、令和4年度から各種計画の検討を重ね、順次策定してまいりました。これら一連の計画においては、高萩中学校区に施設一体型の義務教育学校を整備するとともに、秋山中学校区および松岡中学校区については、既存施設を有効活用した施設分離型の小中一貫教育を導入する方針としております。</p> <p>このうち、高萩中学校区における高萩小学校、東小学校、高萩中学校につきましては、近年の児童生徒数の減少に加え、校舎の老朽化が進行している状況を踏まえ、3校を統合した義務教育学校の設置に向けて検討しております。しかしながら、近年の建築費の高騰や本市の財政状況を踏まえ、現在、施設整備の開始時期について慎重に検討しているところです。</p> <p>特に、高萩小学校は昭和44年に竣工し、築55年が経過しており、校舎の老朽化への対応が喫緊の課題となっております。また、東小学校につきましても、校舎棟が平成8年および平成10年に竣工していることから、将来的な施設更新を見据えた対応が必要であるとともに、児童数の著しい減少への対応も求められている状況です。なお、義務教育学校の設置場所につきましては、児童生徒の安全確保を最優先とし、津波浸水想定区域外としております。</p> <p>また、ご意見にございましたソフト面の充実につきましては、施設整備による教育環境の向上とあわせて、「基本政策2 教育・文化」「1 学校教育」において、児童生徒の学力向上や健全な成長を支える教育、家庭や地域との連携、探究的な学びの充実などを位置づけております。今後も、確かな学力の定着に向けた施策を推進し、教育環境の質的向上に努めてまいります。</p>
76・77	<p>観光（と収入）について</p> <p>自然に囲まれた地域であり、春はさくら鑑賞、夏は海水浴、秋は紅葉狩りとほぼ通年で観光客流入が見込まれる環境にも関わらず、宿泊施設、とくに若年層が気軽にカジュアルに宿泊できる施設が不足しているために、日帰り観光が多いと感じます。宿泊してまで観光するのか、ではなく宿泊地を拠点に観光を考えるようになってくると思います。観光客は定住者よりも短期間の出費額が多いです。宿泊拠点は、点と点を線で繋ぎます。桜を見て終わりではなく、そのあと街を歩いて写真を撮って土産を買って、地元の美味しいものを食べて、さらには帰宅後に土産話をする事でまた訪問客が増えると全てがつながる可能性が出てきます。</p> <p>宿泊すれば、周遊や散策をし、飲食し、土産品を購入します。それにより減少している飲食店、雑貨店、土産店などが反して増加する可能性も出てきます。地域に活気が出ます。宿泊してまで観光してもらえよう環境整備にも自ずと注力されると考えます。</p> <p>新しいものを作るのではなく、今あるものの魅力の再確認をし、ブラッシュアップし再整備し、アピールする。観光客が増えれば、SNSでの露出も増えます。そう言ったSNSから気づき、学びになることは多いです。高萩の何に魅力を感じ、何を目的に訪れるのかを知られば、どこから手をつけていかがわかってくると思います。</p> <p>観光客、あるいは流動人口が増えれば、市内の商業も活気が出ます。収入が増えます。税金が増えます。住み良いまちづくりが進み、さらには定住人口にも影響があるのではと考えます。まずは今あるものの再確認と、効果的な活用を考えてみてはどうでしょうか。</p>	<p>観光資源の利活用については、18ページに記載する高校生と市長とのトークセッションにおいても、魅力向上に取り組むことの必要性が指摘されているところです。</p> <p>本市では、観光資源の利活用の重要性は認識していることから、基本政策3 経済・産業 4 観光において、観光資源の活用や民間企業と連携した新たな体験観光の開発など魅力向上を図るとともにSNS等を活用した観光情報発信にも取り組むこととしております。</p> <p>また、宿泊施設の充実につきましては、民間事業者との連携が必要不可欠です。民間事業者と連携しながら、キャンプやグランピングなどアウトドアの体験型観光の充実を含め進めていく必要があるものと考えております。</p> <p>また、周遊観光につきましても、アウトドアフィールドなどを滞在拠点とした市内観光スポット等への周遊や常陸国ロングトレイルを活用した広域観光など周遊観光の促進に向けた施策などを位置づけております。</p>
101	<p>高齢者の生活および支援について</p> <p>近ごろは地域コミュニティの横のつながり、多世代の交流が減少しています。独居高齢者も多くなっています。また若年者も繋がりが少ないため、周囲に何歳くらいの方がどのくらい住んでいるのかわからないというかもあるかと思います。高齢者（だけではありませんが）まずは自分の身は自分で守る。受けられる補助や支援を待つのではなく、自ら出向いたら、連絡したり、アクセスしたりするなど、自分で動くことも大切かと思えます。例えば高齢者世帯には行政サポートに簡単にアクセスできるような端末（ミニタブレットのような）の配布などはどうでしょう。例えば、ワンタップでのるるが呼べる。自動的に市からのお知らせや避難情報が流れる。医療機関の予約が取れる。議会中継が観られる。などが挙げられます。</p> <p>コミュニティFMが閉局し、災害発生時の避難情報などは防災無線しかなく、近隣のスピーカーから流れる仕組みにはなっていますが、天気が悪く心地よい日であれば窓を開けてゆっくり耳を傾けられますが、地震や台風、山火事、津波などと言ったゆっくりしてられない時に、防災無線のスローな放送を聴けるかという難しい場合も出てきます。</p> <p>ツールにはそれぞれ得手不得手ががありますので、それらをハイブリッドで使うことも必要を思えます。端末配布については近隣の地域で実際に行っている行政があります。転ばぬ先の杖は何本かあったほうが良いと思います。</p>	<p>高齢者の生活及び支援につきましては、基本政策1保健・医療・福祉 4 高齢者福祉において、高齢者が可能な限り介護支援を必要としない状態を維持し、有する能力に応じて自立した日常生活を送ることができるよう介護予防事業や生活支援サービス事業を推進することとしております。</p> <p>コミュニティの希薄化や地域の担い手の減少については、本計画策定の中で実施した内部ヒアリング等でも多くの指摘がありました。本市としましても持続可能な地域づくりの課題として認識しており、基本政策6 地域経営 1 市民協働では、地域コミュニティの形成や持続可能なコミュニティ活動のあり方を検討することとしております。</p> <p>また、防災関連につきましては、基本政策4生活環境 6 防災において災害情報を掲載した防災アプリやWeb版防災マップを活用し、防災に関する情報発信を行っております。</p>